

島根の麦搗き歌から思う

酒井 ただよし 董美

〱 麦搗きの声が枯れたぞ

歌えや野辺のウグユス（鶯）

ウグユス ヤーレ 歌えや野辺の ウグユス

歌い手 金崎タケさん・昭和三十六年当時六十六歳



この歌をうかがったのは、昭和三十六年（一九六一）の八月二十一日のことだった。当時、島根県文化財専門委員（現島根県文化財保護審議会委員）だった牛尾三千夫氏、国立音楽大学教授の内田るり子氏、早稲田大学学生の山路興造氏と一緒に石見地方を回っていたおり、偶然立ち寄った家で、歌の上手な女性を紹介していただき、うたっていた中に、この珍しい麦搗き歌があった。

牛尾氏の話でこの歌は、苗取り歌としてうたわれているが、本来は麦搗き歌だったと思われる、とのことだった。

そして、女性は、この歌を「麦搗き歌」と呼んでいると明確に話しておられたことが印象に残っている。実際は麦搗きの作業では、もううたわれなくなってしまうものの、当時としては苗取り歌に転用され、名称だけは以前の「麦搗き歌」のままに残されていたようである。現在。機械化の関係で苗取りい歌もうたわれなくなってしまった。

ところで、この歌はそのスタイルから、民謡で多く聴かれる近世民謡調（七七七五）ではなく、古代調（五七七四）に属している。

麦搗きの（五）声が枯れたぞ（七）歌えや野辺の（七）ウグユス（四）である。

QRコードを開いてお聴きいただきたい。なかなか荘重で味わい深いものである。これは島根県立古代歴史博物館のホームページに筆者が提供した資料を掲載しているのでQRコードを作ることが出来た。同館では筆者の島根県の資料を民謡十一、民謡十三、わらべ歌十一、解説と共に掲載しているが、提供したものの、手付かずで未掲載になっているのが、まだ民謡四、民謡五、わらべ歌十一ばかり残されている。これは平成二十六年（二〇一四）のことなので、もう九年近く経った。行政の怠慢で専門の担当者が配置されていないのに理由があると筆者は考えている。

無形民俗文化財をそのまましておくのはよくないが、県を相手にして不愉快な気分になるよりは、以前、勤めていた出雲かんべの里のホームページに登載し、関心のある方なら、全国どこからでも利用できるようにしたいものだと思者は現在考えている。

多分、労作歌（麦搗き歌以外に、労作歌としては、臼挽き歌。大漁歌、田植え歌、苗取り歌、藪歌、木遣り歌、味噌搗き歌、紙漉き歌、木挽き歌、杜氏歌、地搗き歌など）を県単位で聴けるようにしたホームページは、まだどの県にもないようだから、完成すれば画期的であり、同時に出雲かんべの里のPRにもなるに違いないと予測している。

あと二回は出雲と隠岐の事例を島根県立古代出雲博物館ホームページに登録した筆者の事例から上げておくこととしたい。